

A rider wearing a grey jacket and black gloves is riding a Harley-Davidson Tourer motorcycle. The motorcycle has a green and black flame paint scheme. The rider is on a bridge with a metal railing, and the background shows a bright sky and water.

THE TOURER

HARLEY DAVIDSON

広大で過酷な環境のアメリカ大陸を
駆け抜けるために生まれたハーレー・ダビッドソンは、
その110年もの長い歴史の中で、
さまざまな革新的モデルを世に送り出してきた。

しかしどの時代においても、
ハーレーのスピリットをもっとも体現するのは、
大排気量のツーリングモデルだった。
そしてそれはツインカム時代においても変わることはない。
ツアラーは、ハーレーの歴史そのもののなのだ。

text/Y.Fujita 藤田佳照 photo/T.Masui 増井貴光
取材協力 / セレクトッドカスタムサイクルズ
TEL03-6712-1805 www.selected.co.jp

酴味がある。



ツアラーには
ハーレーの醍醐



THE TOURER HARLEY-DAVIDSON

今ツアラーの世界観が
変わりつつある。

凍てついた風を切り裂きながら、Vツインの鼓動だけを聞きながら走る冬のツーリングは孤独との戦いだ。しかし、それを何時間も続けていると、しだいに感覚がとぎすまされてきて、ある種の高揚感が生まれてくる。さらに、冷たく澄んで密度の高い大気は、ビッグツインにとつては夏場よりも条件がよく、トルクフルで伸びやかなエンジンフィールを、よりいっそう楽しむことができる。しかし、そんな「ライダーズ・ハイ」とも言える感覚にいたるまで、通常ならばいくつもの「がまん」を覚悟しなければならぬ。その筆頭は言わずもがな、寒さである。近年は高性能な防寒ウェアや、電熱線を内蔵したヒートジャケットなど、冬の走りを楽しんでくれるさまざまなアイテムが手にはいるから、かつてほどの悲壮感はなくなつたが、それでも冬のツーリングがストイックな行為であることには変わらない。

しかし、そのバイクがツアラーであればストイックさがかなり和らぐ。大きなフェアリングはもちろん、豪華なオーディオ、オプションのヒーティングパーツなどがあり、最上級装備ともなれば快適とさえ思えるほど。やはり冬こそ、ツアラーがそのその真価を発揮する最高のシーズン



上：エキパイの取り回し方はツアラー独自だから、カスタムのインパクトとしても重要な部分 右下：重要なディテールのひとつであるサドルバッグ。この部分の見せ方ひとつで、車両の印象は大きく変わってくる 左下：ブラックアウトされたナセルが引き締まった雰囲気を生む



と言つても過言ではない。

そんな、ハーレーが長い時間をかけて進化させてきた旅性能は、われわれに新たな冬の走りの楽しみを提供してくれる。そのおかげで近年、ツアラーは高い人気を獲得して好調なセールスを記録しているという。

さらに、多くのユーザーが生まれることでカスタムシーンも急激に加速してる。ひと昔前ならポリスタイルがカスタムのスタンダードであったが、今ではバガーが人気のスタイルとして確立してさまざまなカスタムパーツが登場。さらにラージホイールやワイドタイヤ、スーパーストヤージュアなど、ソフテイルやダイナのカスタムで人気のパーツをツアラーの中にうまく取り込み現代的に仕上げたカスタムが、世界各国のビルダーの手によって、今まさに続々と生まれてきているのだ。

どこまでも走つていけると想わせる究極のサバイバル性能に加え、多様なカスタムスタイルまで楽しめるようになったツアラー。「いつか手に入れたい」というあこがれをかなえるなら、今がまさにそのタイミングなのではないだろうか。

ツアラーには
ハーレーの
あらゆる魅力が
つまっている。

